

学会賞受賞の紹介

2025年度 実践総合農学会 個別研究発表 優秀研究発表賞【学生部門】

受賞タイトル：「地域資源への愛着意識とその規定要因の評価—中山間地域での写真を用いたアンケート調査を事例に—」

受賞者：草間航平（東京農業大学大学院・食料領域）・丸山優樹（食料領域）・玉木志穂（食料領域）・法理樹里（食料領域）・林岳（食料領域）・若松宏樹（食料領域）



2025年7月に開催された2025年度実践総合農学会の個別研究発表にて、草間航平非常勤職員（東京農業大学大学院）が農林水産政策研究所で携わった研究成果を学会発表し、優秀研究発表賞【学生部門】を受賞しました。

本報告は、中山間地域において景観や文化、経済活動といった地域資源を維持するうえで、地域と多様に関わる「関係人口」の協力をどのようにすれば得られるのかという視点で調査を行った成果を発表したものです。

本研究では、地域資源に対して喜びや希望といったポジティブな感情を強く抱く人々は、関係人口として地域資源の維持に係る活動にも積極的に参加するのではないかといった仮説を立てました。そのうえで人々はどのような地域資源に愛着や関心を持ち、地域資源とポジティブな感情には関連性がある

かについて、鳥取県の中山間地域に位置する日野町を対象として調査・分析しました。

その結果、明らかになった点は、日野町内在住者と町外在住者では愛着を抱く地域資源に差があることです。また、ポジティブな感情が強い人ほど、お祭りや移動販売といった人との関わりを連想させる地域資源を高く評価する傾向があり、住民自らが意思決定することや行政との関わりを重視する人ほど、お祭りなどの文化・伝統を行政と共に継承すべきものと認識していることが示されました。以上の結果から、町外の人々が興味や関心を抱く、人的交流や文化・伝統に起因する地域資源を活用し、関係人口の創出につなげることが有効であると分かりました。

本報告は、人口減少が進む中山間地域において町外の人々に視点を向けた点が評価され、優秀研究発表賞が授与されました。今後は、日野町での地域活動に本研究成果を活かし、持続的な地域づくりにつなげていきたいと思います。

2025年度 実践総合農学会 個別研究発表 優秀研究発表賞【若手研究者部門】

受賞タイトル：「中山間地域の高齢者における会話機会の特徴—鳥取県日野町を事例に—」

受賞者：玉木志穂（食料領域）・丸山優樹（食料領域）



2025年7月にオンラインで開催された2025年度実践総合農学会にて、玉木志穂・丸山優樹による研究報告「中山間地域の高齢者における会話機会の特徴—鳥取県日野町を事例に—」が、個別研究発表において優秀研究発表賞【若手研究者部門】に選出され、優秀報告として表彰されました。

本報告は、中山間地域に居住する高齢者の会話実態を明らかにし、会話機会の創出に向けた糸口を探ることを目的としています。高齢者にとって会話は、認知機能の維持や、うつ・孤立の予防、さらには生活の質（QOL）の向上にも資する重要な要素です。しかしながら、過疎化や地域コミュニティの希薄化により、自然な会話の機会が失われつつある現状があります。

2023年1月から5月にかけて、鳥取県日野町の自治会会場にて、対面による質問紙調査を実施しま

した。当研究所の調査員が、日野町に居住する高齢者一人ひとりに対し、日常生活における会話の状況について丁寧にお話を伺いました。その結果、同じ地域内であっても個人ごとの会話時間に大きな差がみられ、特に会話・相手が限られている高齢者にとっては、自治会活動や移動販売が重要な会話の機会となっていることがわかりました。また、同居していない家族とは電話やオンラインでのやり取りが多くみられ、デジタル活用が実際に必要とされている実態が浮かび上りました。今後は、会話の「量」だけでなく、「質」にも着目し、地域の特性を踏まえた支援のあり方を検討することが求められます。

なお、本調査の実施にあたり、日野町の住民の皆さんおよび日野町役場のご担当者の皆さんには、調査へのご理解とご協力を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。日野町の皆さんのが協力があったからこそ、調査を円滑に進めることができ、その成果を広く共有する機会を得ることができました。あらためて深く感謝申し上げます。